［　島根県古代文化センター　主催　］
島根の歴史文化講座＋オンライン　第１講／令和２(2020)年 11 月１日

〈出雲〉という思想　～抹殺された出雲の神々～

原　武史（放送大学）

１　はじめに

・出雲は古代史の舞台だけではなかった

幕末維新史を〈出雲〉から見る視点

・80 代出雲国造・千家尊福という人物

明治初期の神道界に大きな影響力をもつ。もう一人の「生き神」。

・伊勢ｖｓ出雲、アマテラスｖｓオオクニヌシという視点

伊勢神宮内宮と出雲大社。

２　問題の発端

・『古事記』と『日本書紀』の違い

本居宣長以来の「古事記中心主義」。しかし歴史的には『日本書紀』の方が「正史」として重視されてきた。

・『日本書紀』一書の「国譲り」

『古事記』との大きな違い。オオクニヌシはあっさりと隠退したわけではない。

・「顕」と「幽」

オオクニヌシは「顕」を天皇に譲る代わりに「幽」を治める。

３　平田篤胤と復古神道

・本居宣長と平田篤胤

『古事記』と『日本書紀』をめぐる評価。「幽」の解釈。国学から復古神道へ。

・『霊の真柱』と「幽冥界」

死後の世界としての「幽冥界」。同じ地上世界にあるが見えない。

・出雲中心の神学

オオクニヌシが「幽冥界」を主宰する。天皇も死ねばオオクニヌシの支配下に入る。

・篤胤の門人――六人部是香の思想

「凶徒界」に落ちる天皇。仲哀、崇徳、後鳥羽、後醍醐。国学の前提がひっくり返る。

４　明治維新と祭神論争

・神道国教化と津和野派

明治新政府の神道国教化政策。神祇官の設置。大国隆正ら津和野派。しかしすぐに方針転換。政府からの津和野派の排除。

・大教院と神道事務局

神仏合同の国民教化運動。千家尊福の登場。中央機関としての大教院と神道事務局。祭神は造化三神とアマテラス。尊福は「幽冥界」を主宰するオオクニヌシの合祀を唱える。

・「反国体」としての出雲派

伊勢派の反対。祭神論争。出雲派は民権派と同じ。「反国体」のレッテルがはられた第一号か。勅裁による決着。出雲派が事実上敗退。

・国家神道の確立へ

神道は祭祀であって宗教にあらず。出雲大社に代わって台頭する靖国神社。

５　おわりに

・出雲派を継ぐ思想――出口王仁三郎と大本教団

出雲大社参道入口に立つ碑文。第 1 次大本事件と『霊界物語』の口述。1935（昭和 10）年の第 2 次大本事件。出口王仁三郎・すみ子夫妻が宍道湖畔で検挙される。

【参考文献】

原武史『〈出雲〉という思想』（講談社学術文庫、2001 年）